

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

# おひさまだより

発行 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会 2006年11月 Vol. 11

## 百合丘小学校への出前授業

出前授業を行う前の先生との打ち合わせで、百合丘小学校では12月2日に「ゆりっ子ふれあい夢広場」と銘打った学習成果発表会で、5年生は「総合学習：環境問題を考える」を発表することになったと説明がありました。その学習テーマを掴ませる予備学習の一環として、環境問題に関係する企業（電力会社・・・）などから話を聞くことが企画され、その一つとして私たちの「麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会」の出前授業が選ばれたのだそうです。学校の授業にこのような形でお手伝いできることはほんとうにありがたいことと思えました。

当日（9月21日）は理想的なソーラー日和で、校庭でのソーラー発電もソーラークッカー（太陽熱調理器）も大活躍で、教室でのお話だけでは実感しにくい自然エネルギー利用の凄さと、もろさも含めて体験してもらえたのではないかと思います。

### 目次

百合ヶ丘小学校への出前授業	1
おひさまと遊ぼう	2
かながわ新エネルギー賞受賞に輝く宮崎台幼稚園見聞記& あさお区民まつりに参加して	3
ロツア一報告～まほろば事業の進展とその要因を探る～	4



教室で化石燃料使用と地球温暖化のお話を聞く



太陽光発電パネルに手をかざすと発電できないヨ！



ソーラークッカーで焼き芋を温度計で測ると200℃も！



焼き芋がこんなにどっさり!!! 太陽の熱ってすごいね!!



こちらではお湯を沸かしている 何度まで上がったかな



今日の学習の成果をクイズでチェック

第五回 『おひさまと遊ぼう』 2006年7月22日

麻生区役所広場にて「おひさまとあそぼう」を開催

この週はズットお天気が愚図ついていて、前日もお天気は優れず、開催出来るかどうかやきもきさせられましたが、当日の朝には薄日が射して来て、準備を始められました。自然エネルギーの勉強です。

<区役所屋上の太陽光発電所>



ロビーで表示板の説明  
お父さんお母さんも  
一緒に説明を受けました

屋上には沢山の  
太陽光発電  
パネルがあった



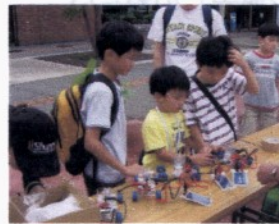
<ソーラークッカー (太陽熱調理器) >

おひさまが弱く調理は不調



でもクッカーの中心は熱くなったヨ!

<ソーラーミニカー>



あ!動いた!!



いろいろやってみます。



<環境クイズ>

良く手が上がり、みな正解でした。

<水力発電等>もありました



<あなたの家の省エネ>



さて、早速何から始めようかしら・・・

<ソーラークッカーの工作>

お父さんお母さんも熱心に



○ 大切な地球の環境を守るために重要な役割を持つ、自然エネルギーのことが少し判ったでしょうか。

～かながわ新エネルギー賞受賞に輝く～

## 宮崎台幼稚園見聞記

9月1日かわさき地球温暖化対策協議会の方と一緒に、宮前区に出かけて見学してきました。東急田園都市線宮崎



素敵なデザインを競う風力発電装置

中村憲一園長が園長室で、私たちに説明をしてくださいました。

「宮崎台幼稚園は“地球にやさしい”幼稚園です。太陽の光や風を電気に変えて使用しています。また環境教育に積極的

に取組をしています。平成14年古くなった園舎を改築した折に、園舎設計は環境のことも考えたものを、と依頼しました。翌15年2月新園舎完成しました。設置には助成金はどこからもい



屋上の太陽光発電パネル=3kW

台駅を少し下ると、すぐにスイミングプールのとなり

に園舎が見えきれいなモニユメントのような風車が目立ち、すぐ分かりました。よく見ると屋上には太陽光

パネルも光っています。

いていません。」

太陽光発電は3kW、屋上に設置されています。シーメンス社製。各階におもちゃがあります。光・風・音の各所のボタンを押すと発電している時には、

光=光る・風=風車が回る・音=オルゴールが音を出す・ようになっています。その日あいにくは雨で、発電していないので動きませんでした。幼稚園児には、“おひさまがでていると発電しているよ”、と遊びながら学べる工夫があります。屋上を案内されて分かったのですが、これは別の系列のパネルでした。もう一つの系列は、系統連係されているものです。太陽光発電電力量は園全体の使用電力量の3%を賄っているとのことでした。

そして風車は150W。デザイン性にも優れたもので、風向も分かります。

環境教育の取組では、屋上に菜園を設け(50cmの厚さの土)、ジャガイモ、トウモロコシ、インゲン豆などを栽培して、クッキング保育の食材に利用する。ジャガイモは保存できるのでダンボールに残っていました。クッキング保育において園児は皆で作ったものを皆で食べるので、好き嫌いがなくなるそうです。

少子化の時代ですが、宮崎台幼稚園は応募数が定員の4倍になります。ちなみに園児は442名13クラス。教職員は30名(若い先生たちです!)

中村園長さんは飾らないお人柄で、時代に先がけた取組をさりげなく説明してくださいました。幼稚園児に地球温暖化を説明し、自然エネルギー・省エネルギーの取組を教えるのは、きっと難しいと思います。しかし、自然エネルギーの施設を持つということはなんとすばらしいことでしょう。幼稚園で環境教育が展開する可能性を秘めているのです!!

(飯田 和子記)

## あさお区民まつりに参加して 10月8日 快晴。

澄んだ青空。太陽がサンサンと照り、絶好のまつり日和です。一昨日の嵐がうそのようです。“おひさまと遊ぼう”ののぼりが上がりました。『さあ、おまつりの始まりです』

クイズのコーナーに列ができ順番待ちです。途切れることなく、なぜか人気がありました。

150余名の方が環境クイズに挑戦しました。昨年出前授業で出会った片平小学校の児童がクイズに挑戦してくれました。

出前授業の内容をちゃんと覚えていて全問正解でした!!



環境クイズに挑戦!

ソーラークッカーもクッキング日和で、出店のブースから急遽さつま芋を調達して、焼き芋を焼き始めました。屋上太陽光発電所見学の呼び込みをしているうちに、“いいにおい”がしてきました。

屋上見学会も約20名の人が参加して、“驚いたり”“感心したり”“興味を持ったり”と反応はさまざまですが楽しい見学会になりました。

(宮川 悦子記)

## エコツアー報告〜まほろば事業の進展とその要因を探る〜

あさお自然エネルギー学校では、2005年の6月に竹村英明氏を招いて学習会を開き、「自然エネルギー導入の先進的な取り組み」(注)と題して飯田市の事例を解説していただいております、その後の経過がどうなっているか、一度現地を訪ねてみたいと思っていた矢先、ソーラーチームからのお誘いを受け、飛び入りで参加させていただきました。(注)竹村氏の講義内容の紹介記事は「おひさまだより vol.8」参照。

日時：2006年9月9日(土)～10日(日)

主催：かわさき温暖化対策推進協議会市民部会ソーラーチーム

参加者：広瀬・山下・飯田・岩本・押見・新垣・山村(全員自費参加)

受入：おひさま進歩エネルギー有限公司 松江良夫会長、原亮弘社長、牧内文隆氏

コーディネーター：おひさま進歩エネルギー統括リーダー竹村英明氏(環境エネルギー政策研究所派遣)

### (1) まずエコツアーの内容について。

●第1日 新宿から中央高速バスで4時間、その日は早速先方仕立ての車に分乗して近間を見学。

14:30～伊賀良公民館見学(10kW おひさま発電所)

15:30～鼎みつば保育園見学・交流会(10kW おひさま発電所)

16:30～おひさま進歩エネルギーの事務所(いとうや階上)にてまほろば事業の説明・見学・意見交換会(和菓子店舗いとうやは小規模ESCO現場)

19:00～宿泊先ホテルで夕食を囲んで説明・交歓(松江会長のご挨拶等)

●第2日 日曜日ということもあり、観光的要素も加味して車2台で遠出。

10:00～よこね田んぼ見学(日本棚田100選の一つ)(案山子コンクール)

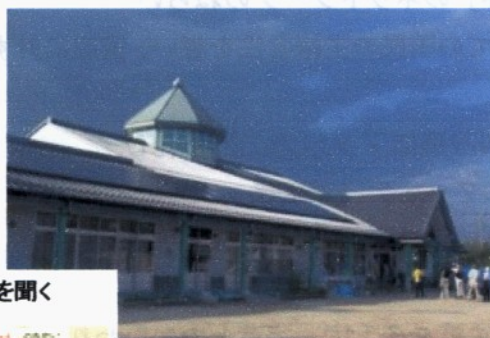
道中、天竜峡や南信バイオマス協同組合(飯田市内の森林の間伐材でペレット製造)の工場を外から見て、昼食のため高台のそばや工房「屯」(たむろ)に。

12:30～そこで飯田市職員による飯田市の取組の説明と交流会

(2) 2日間にわたる見学と交流の場から我々は、多くのことを学びました。以下はその主なものです。

①飯田市のまほろば事業の支柱である太陽光発電事業。2005年4月から市内の38カ所の公共施設の屋根に目的外使用の契約をして設置済み。昨年度は、24万kWh/年の発

写真は鼎みつば保育園



原亮弘社長からまほろば事業の説明を聞く



電をし、うち14万kWhを自己消費して余剰電力は中部電力に売電したということです。

②小型ESCO事業の方は、交付金について環境省の交付決定がおくれたため、広報・営業活動

にとまどっていましたが、9月25日付けで決定が降り今後は契約獲得に拍車がかかるものと思われます。

その他ペレットボイラー導入事業や人づくりの自然エネルギー大学校についても着実に進展しており、竹村氏はまほろば事業全体の完遂に静かな情熱と自信を示されていました。

(3) まほろば事業以前からある飯田市の環境への取組姿勢及至まちづくりの精神が何に由来するものか？私はツアーの最中から考えていました。

両アルプスにはさまれ積雪量が少なく、日照時間が比較的長い。大都市から適度に離れて風光明媚なこの土地を愛するに人がおり、Iターンも増えている。官・民・企業間の関係も協調的で、政治的にも安定している。いわゆるゲマインシャフト型社会がしっかり出来ている。そして人格的なリーダーがいてよくまとめているというところでしょうか。この点で大都市のサークル的の市民活動やパートナーシップ型組織とはかなり異なるように感じました。(山村 茂記)

発行：麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会(委員長 飯田和子)

編集担当：河野・樋口・吉田・和田

問合せ先：麻生区役所地域振興課 Tel 044-965-5116 Fax 044-965-5200

川崎市麻生区万福寺 1-5-1 発行年月日：2006年11月 8日